

# 総合分析実験センター

## 生物資源開発部門

### 原著論文

- 1 \*弥富雅信, 秀島聖尚, 小松 智, 平川信洋, 青柳孝彦, 北川範仁, 笠原貴紀, 可徳三博, 鶴田敏幸: 成長期野球肘の重症化をもたらす個体要因について. 九州・山口スポーツ医・科研究会誌 20, 52-57. 2008.
- 2 北嶋修司, 森本正敏: 凍結精子による遺伝子組換えウサギの系統保存. 関西実験動物研究会会報 30, 16-20. 2008.
- 3 \*古賀寿記, 高原信二, 小松 智, 平川信洋, 青柳孝彦, 北川範仁, 笠原貴紀, 可徳三博, 鶴田敏幸: 左踵骨前方突起疲労骨折を呈し, 骨接合術を施行した一症例. 九州・山口スポーツ医・科研究会誌 20, 128-134. 2008.
- 4 \*中野達也, 秀島聖尚, 小松 智, 平川信洋, 青柳孝彦, 北川範仁, 笠原貴紀, 可徳三博, 鶴田敏幸: 成長期野球競技者における腰痛の現状. 九州・山口スポーツ医・科研究会誌 20, 85-90. 2008.
- 5 西島和俊: 喉頭上皮における炭酸ガス受容器の検索. 九州実験動物雑誌 24, 9-16. 2008.
- 6 \*辻尾祐志, 溝呂木敏弘, 桑原佐知, 西島和俊, 大野民生, 青山博昭, 田中 慎: 近交系での特性解析. 九州実験動物雑誌 24, 45-49. 2008.
- 7 \*辻尾祐志, 溝呂木敏弘, 西島和俊, 桑原佐知, 大野民生, 青山博昭, 田中 慎: X層厚生細胞の退行時形態の系統差. 九州実験動物雑誌 24, 51-54. 2008.
- 8 \*鶴田敏幸, 可徳三博, 青柳孝彦, 笠原貴紀, 北川範仁: 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する治療成績. 日本手の外科学会雑誌 24: 6, 1097-1102. 2008.
- 9 \*鶴田敏幸, 可徳三博, 青柳孝彦, 北川範仁, 道下竜馬: 若年スポーツ選手における膝蓋骨下極障害治療成績とその病態に対する一考察. 日本臨床スポーツ医学会誌 16: 2, 250-257. 2008.
- 10 \*Yamada S., Wang K-Y., Tanimoto A., Fan J., Shimajiri S., Kitajima S., Morimoto M., Tsutsui M., Watanabe T., Yasumoto K. and Sasaguri Y.: Matrix metalloproteinase 12 is a factor that accelerates the initiation of atherosclerosis and stimulates the progression of fatty streaks to fibrous plaques in transgenic rabbits. *Am. J. Pathol.* 172, 1419-1429. 2008.
- 11 \*Yu Y., Koike T., Kitajima S., Liu E., Morimoto M., Shiomi M., Hatakeyama K., Asada Y., Wang K-Y., Sasaguri Y., Watanabe T. and Fan, J.: Temporal and quantitative analysis of expression of metalloproteinase (MMPs) and their endogenous inhibitors in atherosclerotic lesions. *Histol. Histopathol.* 23, 1503-1516. 2008.

### 学会発表

#### 全国規模の学会

- 1 北川範仁, 小田万友子, 北嶋修司, 高崎光浩, 十時忠秀: ケタミンによる神経障害のメカニズムは可溶化作用ではない. 日本麻酔科学会第55回学術集会. 2008, 6, 12-14. 講演要旨集 139.
- 2 \*田中 慎, 溝呂木敏弘, 西島和俊, 青山博昭, 大野民生: ラットにおける骨評価系. 第55回日本実験動物学会総会. 2008, 5, 15-17. 講演要旨集 139.

## 地方規模の学会

- 1 \*森本正敏, 前田達弘, 北嶋修司, 小池智也, 于 瑩, 柴田信光, 範 江林: 生活習慣病モデル動物となる遺伝子組換え (TG) ウサギの脳内活性物質の変化 I. TG ウサギの視床下部における NPY, SOM, VIP の検出. 第26回九州実験動物研究会総会. 2008, 11, 15. 九州実験動物雑誌 24, 78.
- 2 \*辻尾祐志, 溝呂木敏弘, 西島和俊, 桑原佐知, 大野民生, 田中 慎: X層構成細胞の退行時形態変化の系統差. 第26回九州実験動物研究会総会. 2008, 11, 15. 九州実験動物雑誌 24, 79.

## その他の学会

- 1 \*山田壮亮, 王 克鏞, 谷本昭英, 範 江林, 島尻正平, 北嶋修司, 森本正敏, 渡邊照男, 笹栗靖之: 細胞外基質分解酵素 MMP-12 は, 初期動脈硬化巣の形成から進展に重要な促進因子である. 第3回フォーラム「医療に貢献する実験用ウサギの新しい展開」. 2008, 7, 26. 講演要旨集 14.

## 研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
准教授	北嶋 修司	科学研究費補助金	基盤研究(C)	新規遺伝子組換えウサギによるメタボリックシンドロームにおける PPAR の役割の解明	1,690
准教授	北嶋 修司	厚生労働科学研究費補助金	創薬基盤推進研究事業	急性冠症候群の疾患モデルウサギの開発及びバイオリソースの樹立	1,640
助教	西島 和俊	科学研究費補助金	基盤研究(C)	急性冠症候群克服の疾患特異的 MMP の探索—遺伝子改変ウサギを用いた研究	500

## 機器分析部門

### 原著論文

- 1 Terato, H., Tanaka, R., Nakaarai, Y., Nohara, T., Doi, Y., Iwai, S., Hirayama, R., Furusawa, Y., Ide, H.: Quantitative analysis of isolated and clustered DNA damage induced by gamma-rays, carbon ion beams, and iron ion beams. *J. Radiat. Res.* 49: 2, 133-146. 2008.
- 2 Terato, H., Watari, H., Shimazaki, Y., Hirayama, R., Furusawa, Y., Ide, H.: Analysis for complexity of clustered DNA damage generated by heavy ion beams. *Nucleic Acids Symp. Ser.* 52, 443-444. 2008.
- 3 \*Ide, H., Nakano, T., Salem, A. M. H., Terato, H., Pack S.P., Makino, K.: Repair of DNA-protein crosslink damage: Coordinated actions of nucleotide excision repair and homologous recombination. *Nucleic Acids Symp. Ser.* 52, 57-58. 2008.

### 学会発表

#### 国際規模の学会

- 1 Terato, H., Ohshima, M., Takuwa, M., Yoshimura, Y., Shiroyama, S., Hirayama, R., Furusawa, Y., Ide, H.: Property of Clustered DNA Damage Produced by Heavy Ion Beams and the Molecular Mechanism of its Biological Effects. 10th International Workshop on Radiation

Damage to DNA 2008, 6.

- 2 \*Ide, H., Nakano, T., Salem, A. M. H., Terato, H., Pack S.P., Makino, K.: Repair of DNA-protein crosslink damage: Coordinated actions of nucleotide excision repair and homologous recombination. 35th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry. 2008. 9.
- 3 Terato, H., Watari, H., Shimazaki-Tokuyama, Y., Hirayama, R., Furusawa, Y. and Ide, H.: Analysis for complexity of clustered DNA damage generated by heavy ion beams. 35th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry. 2008, 9.

全国規模の学会

- 1 °市場正良, 高橋達也, 山下善功, 高石恵子, 西村晃一, 蒲池将史, 近藤敏弘, 松本明子, 上野大介, 宮島 徹: 佐賀環境フォーラムにおけるシックスクール問題への取り組み. 第78回日本衛生学会. 2008, 3, 28. 日衛誌 63: 2, 354.
- 2 井出 博, 寺東宏明: 抗がん剤および変異原物質により誘発される DNA-タンパク質クロスリンク損傷の修復機構. 第67回日本癌学会学術総会. 2008, 10.
- 3 寺東宏明, 島崎-徳山由佳, 渡 裕美, 田中瑠理, 中新井祐介, 野原智紀, 平山亮一, 古澤佳也, 井出博: 放射線生物影響におけるクラスターDNA 損傷の量的, 質的效果の実験的解明へのアプローチ. 第51回日本放射線影響学会大会. 2008, 11, 21. JRRS 51, 77.
- 4 島崎-徳山由佳, 田中瑠理, 中新井祐介, 平山亮一, 古澤佳也, 井出 博, 寺東宏明: 重粒子線生物効果におけるクラスターDNA 損傷の量的効果の実験的解析. 第51回日本放射線影響学会大会. 2008, 11, 19. JRRS 51, 89.
- 5 \*中野敏彰, 寺東宏明, 井出 博: 高等真核生物における DNA-タンパク質クロスリンク損傷の修復機構. 第51回日本放射線影響学会大会. 2008, 11. JRRS 51, 93.
- 6 \*井出 博, Salem, A., 中野敏彰, 坪井智宏, 寺東宏明: DNA 修復欠損細胞の DNA-タンパク質クロスリンク誘発剤感受性. 第31回日本分子生物学会年会, 第81回日本生化学会大会合同大会. 2008, 12.
- 7 \*Amir, S., Nagisa, M., Tsuboi, T., Terato, H., Yamamoto, K., Yamada, M., Nohmi, T. and Ide, H.: Repair and tolerance pathways to DNA-protein crosslink damage in Escherichia coli. 第51回日本放射線影響学会大会. 2008, 11.

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
准教授	寺東 宏明	平成20年度佐賀大学中期計画実行経費	医学部研究者育成事業【基礎】	重粒子線がん治療における被照射標的細胞中に生じる特異的 DNA 損傷形態の微細構造解析	1,000
教務員	近藤 敏弘	産業医学振興財団産業医学に関する調査研究助成金		ホルムアルデヒド曝露作業者の個人曝露濃度測定評価	交付金なし